

<農業生産条件の強化（自己施工）に取り組む事例>

水路、溜柵の補修と法面管理の省力化展示圃の設置

1. 集落協定の概要

市町・協定名	広島県庄原市上原町 熊野			
協定面積 17.4ha	田（100%）	畑	草地	採草放牧地
	水稻、野菜、飼料作物	—	—	—
交付金額 344万円	個人配分 30%			
	共同取組活動 (70%)	役員報酬		4.1%
		体制整備に関する研修会費		2.9%
		水稻の共同ヘリ防除費		12.3%
		畦畔維持管理費		1.8%
		畦畔管理省力化実証及び導入費		1.8%
		集会所の備品及び維持管理費用		7.3%
		農道、ため池、水路等の改修の積立費		32.0%
		事務費		0.8%
協定参加者	農業者15人、非農業者5人			開始：平成22年度

2. 取組に至る経緯

熊野地区は、第1期については高齢農業者と中堅農業者との考え方の相違があり、協定締結に至らなかった。第2期は1期の反省を踏まえ、40～50才代の農業者が主導し、集落合意を取り付け協定締結にこぎつけた。第2期に水路補修、共同ヘリ防除等で交付金を有効活用できたことから、第3期にも取組をつなげることができた。第2期対策の後半には第3期のC要件と同様、集落外在住の農家の子弟が週末にはサポート者として農地の耕作維持を実施するようになった。

3. 取組の内容

協定農地は、昭和50年頃に実施されたほ場整備田で水路や溜柵が老朽化しており、第2期対策からの継続で水路、溜柵の補修を実施する。毎年、役員と関係者で水路、溜柵等を歩いてマップに落とし、補修のための優先順位や中山間直接支払積立額と個人負担額等を検討している。

集落内の世代交代が進み「農業はしんどいのが当たり前」から、「楽に農業をしよう」という考え方に転換しつつある中で、高さが5～10mある畦畔管理の省力化として、センチピートグラスの植栽の実証展示圃を今年度設置し、今後計画的に植栽していく予定。また、不在地主の農地を、地域内でどうにかしていきたいという思いから、集落営農等の研修会を計画している。



【 農用地等保全マップ作成 】



【 センチピートグラス吹き付け作業 】

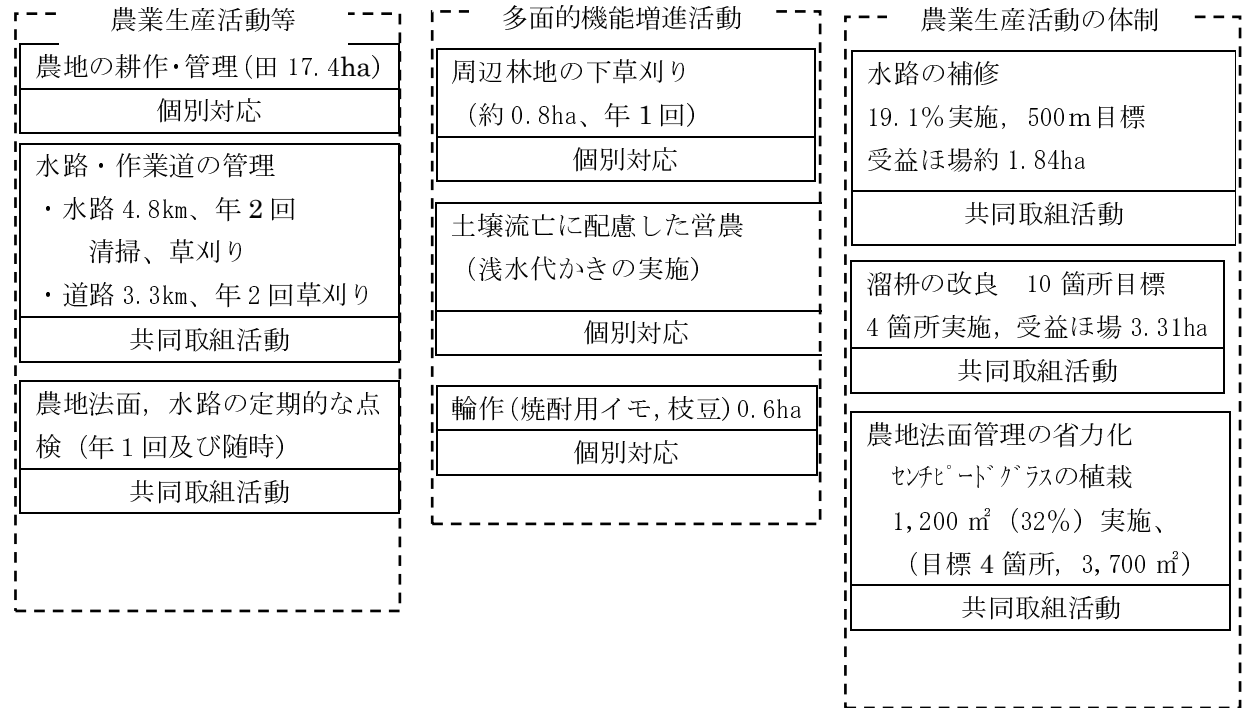
【集落の将来像】

○無理なく、集落内の農地を耕作管理できる集落営農の体制整備を構築する。



【将来像を実現するための活動目標】

○水路、溜枡の補修や、法面の管理省力化への改良を行いつつ、集落にあった営農形態を模索していく



4. 今後の課題等

不在地主の農地の対応について、1号法人の設立や、担い手への農地集積など地域にあった手法を検討していく。

【第2期対策の主な成果】

- ・中山間直接支払協定に取り組む過程で、集落運営での世代交代ができた。
- ・今まで集落に関心がなかった人が参加するようになった。集落外の子弟が営農に深く関わり始めた。
- ・共同ヘリ防除を実施することにより、高齢者の離農を食い止め、トラクターの共同作業(5ha)などの作業の受け皿となる活動が集落内ででき始めた。
- ・水路、溜枡補修を実施できた。